



地磁気世界資料解析センター News

1. 新着地磁気データ

前回ニュース (2018年1月31日発行、No.167) 以降入手、または、当センターで入力したデータのうち、オンラインデータ以外の主なものは以下のとおりです。

オンライン利用データの詳細は (<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/catmap/index-j.html>) を、観測所名の省略記号等については、観測所カタログ (<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/catmap/obs-j.html>) をご参照ください。

また、先週の新着オンライン利用可データは、(<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/wdc/onnew/onnew-j.html>) で御覧になれ、ほぼ2ヶ月前までさかのぼることもできます。

Newly Arrived Data

- (1) Annual Reports and etc.(off-Line) : NGK (Nov.-Dec., 2017)
- (2) Kp index : (<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/kp/index-j.html>) : (Jan.-Feb., 2018)

2. ASY/SYM 指数

2018年1-2月のASY/SYM指数を算出し、ホームページに載せました。

<http://wdc.kugi.kyoto-u.ac.jp/aeasy/index-j.html>

3. 世界科学データシステム(WDS)関連情報

・WDS Data Stewardship Award 2018 : ICSU World Data System では、データサービスに大きな貢献のあった若手を顕彰するため WDS Data Stewardship Award を年に一度授与しています。評価項目は、(1) 学界への貢献、あるいは (2) データサービスに関連する学術的貢献、あるいは (3) 新しいサービス手法の開発 ((1) engagement with the community, (2) academic achievements, and (3) innovations.)です。対象となる若手の条件は、40歳以下で、修士あるいは博士、または同等の専門的教育を経てから10年以内の方です。推薦者の条件は、WDSメンバー組織の代表者、あるいはWDSのワーキンググループ、ICSUのInterdisciplinary Body、ICSUのScientific Union Member または National Scientific Member です。受賞者は今回の場合、SciDataCon 2018 (International Data Week, 5-8 November in Gaborone, Botswana)に招待され、表彰式への出席と講演をしていただきます。まわりに該当すると考えられる候補者がおられましたら、5月21日までに、WDS International Programming Office まで、推薦書をお送りください。なお、推薦書様式等、詳細は、

<http://www.icsu-wds.org/>

および

<http://www.icsu-wds.org/news/news-archive/call-for-nominations-wds-data-stewardship-award-2018>

を、ご参照願います。

4. 家森俊彦地磁気センター長の最終講義

家森俊彦地磁気センター長の最終講義が、理学研究科セミナーハウスにて3月17日(土)15:30から17:00まで、「地磁気変動の研究とデータサービスの35年」という題で開催されました。約70名の方々のご参加をいただきありがとうございました。



5. 退任のご挨拶

この3月末日をもちまして、京都大学を定年退職するに伴い、地磁気世界資料センター長も退任することになりました。私は1981年に助手として採用していただいて以来、途中2年間の海外滞在研究期間を除き、37年間、地磁気データのサービスと、地磁気に関する研究および学生の教育に携わらせていただきました。この間、特に前半の20年間は、アナログ記録の時代からデジタル記録への移行期にあたり、記録媒体や計算機システムがめまぐるしく変化し、データサービスに用いる装置の導入や、デジタルデータの取得、そのための予算獲得の為に、荒木徹先生や、杉浦正久先生の下、亀井豊永さんや米山利明さん達と事務的或いは技術的なことで忙しく動き回ったことが思い出されます。その甲斐もあり、また、学界や学内外の関係者の多大なご協力を賜り、1999年には地磁気センターに専任の教授ポストが純増で設置され、2000年4月からセンター長として働かせていただくことになりました。1990年代から本格的に始まったインターネットを当センターではいち早く取り入れ、1995年からはwebサービスも開始しました。世界中で広く使われている地磁気Dst指数およびAE指数算出の準リアルタイム化と相俟って、当センターへのデータリクエスト数は飛躍的に多くなり、現在では1ヶ月に200万回を越えています。2000年以降は、ビッグデータ、データ中心科学という言葉に象徴されるデータの重要性が社会的にも認識される時代が到来しました。そのような状況の変化を反映して、1957-1958年の国際地球観測年に設置され、当センターもその一部である世界資料センター(ICSU/World Data Centers)組織も見直しが行われ、2008年には新たに世界科学データシステム(ICSU/World Data System)として、地球科学関係だけではなく、生命科学や歴史・文化関係のデータなど、広範な分野をカバーし、データセンター間を横にもつなぎ、分野横断的研究の推進にも大きく貢献できる新たなシステムを構築することが決定されました。World Data System (WDS)ではWorld Data Center (WDC)時代の不十分な点、失敗も考慮して、WDSメンバーとなるためのかなり厳しい資格審査が



導入されました。幸い当センターは、地磁気センタースタッフ諸氏のがんばりと、上記インターネット時代の波に比較的うまく乗ることができていたこと、また、大学間連携事業(IUGONET)や国内外のデータ関連活動に関わっていたことも助けとなり、我が国では最初のWDS正規メンバーの資格を獲得することができました。この間の学内外の皆さまの長年のご協力・ご厚情に深く感謝いたします。今後も、これまでのサービスの継続とともに、更なる発展を期待しております。私も、退任後はセンター外から微力ながらもお役に立つことができれば幸甚です。



<最終講義後の集合写真：理学研究科セミナーハウスにて>

(2018年3月 家森 俊彦)